

シェールガス革命を背景に、アメリカは今や、オイルショック以来の野望を実現しようとしている。それはエネルギーの完全独立。中東などに頼らない、石油の自給自足はニクソン大統領以来の夢だったのだ。豊富なシェール層に加え、最新技術を有する掘削会社シュルンベルジェ、ハリバートン、ベーカーヒューズら「地下を牛耳る御三家」と、チェサピーク、デボンなど採掘権を独占する米企業群。アメリカの独走は決定的となり、「サウジアメリカ」などとささやかれた。した。

いっぽう日本では、シェールガスは秋田県に“スズメの涙”ほど見つかっただけ。日本は指くわえて見ているだけ？。ところがどっこい、オールジャパンは今や戦闘態勢を整えつつあるのだ。実はシェールガスを取り出す圧力に耐えられる鋼管パイプは、新日鉄住金など、日本の鉄鋼メーカー以外には作れない。また、ガスを精製して気体から液体、液体から気体へとリサイクルを行うが、このプラントは住友精密工業と神戸製鋼しか作れない。さらに、ガスを収納する運搬容器には炭素繊維が使われるが、この分野は東レ、帝人、三菱レイヨンの日本勢が世界シェアの約70%を握り、建機に使用する超大型タイヤは、世界でブリヂストンにしか作れず、ガス掘削時の大量排水への公害対策には世界ナンバーワンの三機工業、栗田工業の水処理技術が全てを解決してしまい、日立造船のガスから液体燃料を製造する装置は、設備一つを受注するだけで100億円単位のビジネスになるという。日本が世界に誇る“匠”の技術の出番が来たのだ。しかもこれらは既存技術のため、新たな開発資金が不要なこともありがたい。

聖書には、薄幸の賢人ヤベツという人が、神を敬い優秀ではあったものの、悲しみが長く続き、自分の境遇を嘆き神に向かって祈った時、神がそれに答えられたことが記されている。

**「『私を大いに祝福し、私の地境を広げてくださいますように。御手が私と共にあり、災いから遠ざけて私が苦しむことのないようにしてくださいますように。』そこで神は彼の願ったことを叶えられた。」 I 歴代誌 4 章 10 節**

が、それだ。優秀な技術を有しながらも試練の続く日本経済。それは日々苦しみもがきながら

も生きていこうとする我々日本人一人ひとりも同じだ。今こそ神に心の底から真情を吐露して、願いを聞いていただいてはいかがだろうか。 2013-6-2



日立造船が製造する圧力容器の1つ、クロムモリブデン鋼製高温高圧リアクター。